

公益財団法人 オイスカ

オイスカは1961年に日本で創立され、主にアジア・太平洋地域を中心に、農業などを通じた人材育成や、持続可能な地域開発、植林などの環境保全活動を展開し、今年で創立50周年を迎えます。1993年には世界のNGOを代表して「地球サミット賞」を受賞致しました。

活動としては、特に開発途上国の青少年の育成に力を入れ、昨年度は海外研修センターにて1,063名、日本国内で253名に農業などの研修を行いました。研修を修了した数万人におよぶ研修OBは、各界にて活躍しており、地域の農業技術の普及に携わる人も大勢います。また、1980年に開始した海外植林活動では、累計で15,400ha（皇居の面積の約108倍）を緑化しました。日本国内でも森林保全活動（今年度21県38カ所を実施）や、間伐材を利用して行う「森のつみ木広場」（昨年度60カ所で開催）などを実施しております。

また、東日本大震災を受けて、海岸林再生プロジェクトを立ち上げました。被災地住民や行政、林業事業体や支援者と協働・連携し、まずは2012年春の育苗開始に向けて準備しております。



学校林活動への取り組み

1991年より、海外版学校林活動とも言える「子供の森」計画を、27の国と地域、4,410校にて実施しております。子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めています。この活動に対しては、財団法人ベルマーク教育助成財団「友愛援助」を通じて、全国の学校からご支援を頂いております。

また、国内の学校林保全活動は2000年より開始しており、現在では、青森、宮城、山梨、東京、神奈川、長野、静岡、岐阜、愛知、富山、大阪、兵庫にある合計22校の小・中学校において、教育現場での体験学習が安定的に継続できるように、森林整備とともに、

「学校林保全委員会」などの組織立ち上げのサポートなども行っています。

全国約3000の小・中・高校が保有している学校林は、森林がもたらす教育的効果を十分に得られる最適なフィールドとして見直されつつあります。しかし、いざ学校林を活用しようとしても、森林に関する知識や荒れ果てた学校林を整備するための資金がない、誰に何を相談すればよいか分からない、などの問題を抱えている学校が多いのが現状です。各学校林に関係する方々が協働することによって、地域全体の「ふるさと」として学校林を守り、育んでいけるよう活動を進めていきます。



お問い合わせ・連絡先

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
公益財団法人 オイスカ 啓発普及部
Tel.03-3322-5161 Fax.03-3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
URL <http://www.oisca.org/>

多くの支援者が必要です。寄附金募集中！

財団法人 日本森林林業振興会 長野支部

当会は、保健、休養等のために森林を利用する者に対する便益の増進及び森林林業に関する施策の推進に寄与すること等を目的として、

- 保健・休養等森林を利用する者の安全及び便益の増進並びに愛林思想の普及
- 森林ボランティア活動、森林づくり活動の推進
- 分収造林等による森林の育成整備及び木材等の森林資源の活用に関する事業等

を行っています。

具体的には、日本森林林業振興会の「森林づくり事業基金」を活用し、分収造林の実施や森林ボランティア活動への支援等を行っています。

当会においても、平成21年度と22年度に中部森林管理局の東信森林管理署管内の軽井沢地区で台風の被

害を受け立木の倒れた箇所に分収造林を設定し、ヤマザクラ、コナラ、カラマツ等を植栽し森林の早期復旧のためその育成に努めています。

この箇所は水源地で、また、近くには別荘地もあり数年も経てば道路沿線に植えたヤマザクラの花を愛でることも期待でき、朝夕散歩している別荘住民にも喜ばれています。

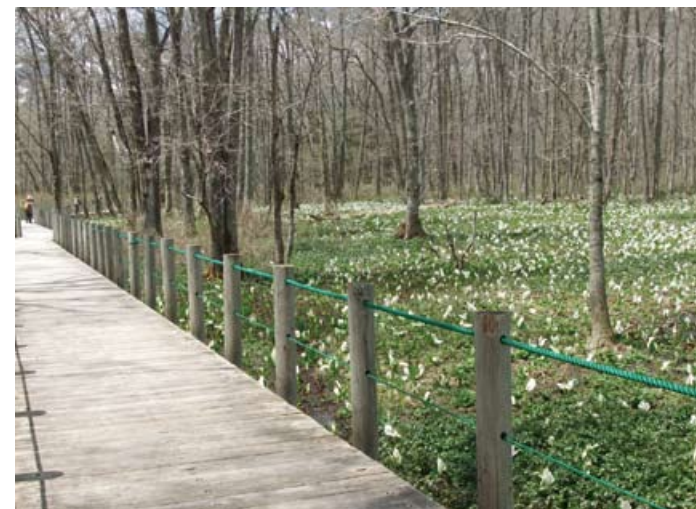
また、地球温暖化防止、CO2の削減、木材利用の推進等を目的とした薪ストーブやペレットストーブの寄贈事業、更には、国有林内に設定されている自然休養林内の老朽、腐朽してきた遊歩道を観光客の皆さん等が安全に散歩ができるようにするためオフィシャルサポーターとして協定を締結し、補修資材等の支援を行うなどの事業も併せて行っています。



分収造林地の下刈（職員実行）



ペレットストーブの寄贈



戸隠自然休養林遊歩道

お問い合わせ・連絡先

〒380-0917 長野県長野市大字稲葉2413-3
財団法人 日本森林林業振興会 長野支部
Tel.026-226-0915 Fax.026-226-9276

長野県林務部

近年、地球温暖化をはじめとした環境問題への関心が高まる中、改めて森林・林業、木材の持つ働きが注目されています。

長野県では、森林の整備・保全や林業・林産業の振興とともに、森林・林業を支える人材の育成も進めています。人材育成にあたっては、①森林組合や林業事業体等のプロの技術者の育成、②森林所有者やその後継者、森林ボランティア等の育成、とともに、③一般県民や小・中・高校生への普及啓発、の3区分で実施しています。このうち、小・中・高校生を対象とした取り組みは、次のとおりです。

①みどりの少年団活動の支援

平成23年4月1日現在、長野県には179のみどりの少年団が結成されています。このみどりの少年団による植育樹・緑化などの活動や、新たな少年団の結成を、現地機関の林業普及指導員が、(財)長野県緑の基金や各地区の緑化推進委員会と連携し、学校や地域住民との協働により支援しています。

また、少年団の活動発表や交流を行う「みどりの少年団交流集会」を、県や地域単位で実施しています。



伊那西小学校の授業



下草刈り

②森林環境教育や体験事業の実施

現地機関の林業普及指導員と森林・林業関係者とが協働し、総合学習の時間を利用して、森林の働きや木材の性質などを中心とした森林環境に関する授業を行うとともに、学校林の整備、きのこ栽培等の支援も行っています。

また、市町村や地元関係者、NPO などによる森林・林業体験や交流活動の支援も行っています。

③高校生の林業体験講座

これからの社会を担う高校生を対象に、森林・林業への関心を深めてもらい、今後の進路の参考にしてもらうため、林業・林産業の体験や視察を行う講座を開催しています。

こうした取り組みから、将来の森林・林業を担う人材が増えることを期待しています。



高校生の林業体験

お問い合わせ・連絡先

〒380-8511 長野県長野市大字南長野字幅下692-2

長野県林務部 信州の木振興課経営普及係

Tel.026-235-7267 Fax.026-235-7364 E-mail ringyo@pref.nagano.lg.jp

公益財団法人 長野県緑の基金

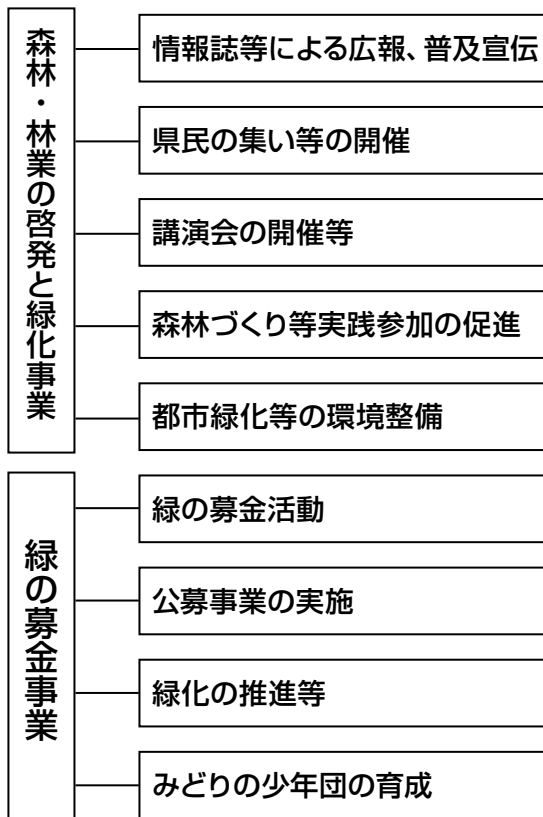
長野県は、県土の約8割を森林が占める緑豊かな県です。けれども個々の森林や身の周りの緑は、質の面から見ると必ずしも優れているとは言えない状況にあります。

一方で、森林・緑は、身近な日常生活、ひいては地球規模での環境を保全するためにはなくてはならない非常に重要な存在です。

当基金は、約30年前、昭和58年に県民一人ひとりの皆さんに森林や身近な緑の環境づくりに参加していただき真に緑豊かなふるさと長野県づくりを進めようと発足しました。

また、法律に基づき長野県知事の指定を受けた緑化推進委員会として、県民の皆さんから寄付していただく緑の募金の受け皿ともなっています。

現在、次のような体系で事業を展開しています。



みどりの少年団



地区植樹祭（北信）



県植樹祭（防護ネット設置）



春の森林教室

お問い合わせ・連絡先

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2
(長野県林務部森林づくり推進課内)

公益財団法人 長野県緑の基金

Tel.026-232-0111 (内線 4819)

Fax.026-234-0330

E-mail green@midori-joho.gr.jp

NPO法人 やまぼうし自然学校

やまぼうし自然学校は、2010年にNPO法人認証10年の節目を迎えました。長野県の菅平高原をフィールドに、環境教育にかかわる活動を実施しています。200名の会員に支えられ、年間およそ2万人の方に活動に参加いただいています。6名いる常勤スタッフの平均年齢は38歳。さまざまな人生経験、男脳と女脳の考えを結集し、チームワークで活動を展開しています。

菅平高原は、夏はラグビー、サッカー、陸上などの合宿でたくさんのスポーツ選手が滞在し、冬はスキーマとスノーボードでゲレンデが賑わいます。人口1,200人たらずの高原がこのときばかりは活気に満ち溢れます。その周囲に広がる森や野原が賑わうのが、林間学校やキャンプなどのやまぼうし自然学校の活動です。

2011年は林間学校で100校、夏冬の宿泊キャンプに200人ほどの小中学生が参加しました。これからも、“観察”、“食”、“山登り”、“ものづくり”といったさまざまテーマで活動を提供し、森とつながる生活の大切さに共感できる人を増やしていきたいと考えています。

林間学校の体験学習

年間延べ16,000人ほどの小中学生が取り組む林間学校の体験学習。不動の人気プログラムは、ネイチャートレイル（自然観察）、根子岳登山、そして青竹クーヘンづくりです。ものづくりでは、かご編みとドリームキャッチャー、クルミのストラップ。りんごや巨峰が手に入れば、青竹クーヘンにスタッフ手作りのジャムがつくラッキーが学校もあります。森と自分のつながりを見つけ、間伐材の利用の意義を学ぶなど、何らかの「学び」を持ち帰ってもらうことをねらいとしています。



夏の宿泊キャンプ



林間学校

指導者養成講座

やまぼうし自然学校の会員のうち、指導者として出動するのは年間延べ1200人です。子どもたちに森の大切を伝えるために、大人の存在が欠かせないことはいまでもありません。やまぼうし自然学校は、毎年指導者養成講座を開催し、ともに活動する仲間づくりに力を入れています。“こんな大人になりたい！”“またこの人と森で会いたい……”。そう思わせることも、子どもが森を身近に感じる大事な一歩です。

指導者養成講座
森の樹木観察



森でモリモリ遊び隊

お問い合わせ・連絡先

〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1223-5751
NPO法人 やまぼうし自然学校
TEL.0268-74-2735 FAX.0268-74-2795
E-mail info@yamaboushi.org
URL <http://yamaboushi.org>
スタッフブログ <http://blog.yamaboushi.org/>

学校林・遊々の森

全国子どもサミット in 信州



協賛企業の取り組み

一般財団法人セブン-イレブン記念財団の活動

セブン-イレブンみどりの基金
一般財団法人 **セブン-イレブン記念財団**

セブン-イレブンみどりの基金は、2010年3月1日に一般財団法人セブン-イレブン記念財団を設立し、その業務を全て同財団に移行・承継いたしました。

セブン-イレブンみどりの基金は、株式会社セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年記念事業として、セブン-イレブン加盟店と本部が一体となって環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年11月に設立されましたが、セブン-イレブン店頭にお寄せいただくお客様からの募金が、年々増加してきましたことから、法人格の取得を検討し、このたび一般財団法人の認可をいただいた次第でございます。

セブン-イレブン店頭でお客様からお預かりした募金と、株式会社セブン-イレブン・ジャパンからの寄付金をもとに、公募助成を通した環境市民団体への支援により、自然環境保護・保全、環境美化、災害復元の支援と体験型環境学習への支援に力を入れています。

また、美しい日本の四季を彩る花や木々を大切に、災害で失った自然を復元する活動に支援することで、次世代に引継ぐ環境を守ることを主旨として、2006年から実施している「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」への支援に続き、2008年からは、噴火災害の復元活動として、「三宅島緑化プロジェクト」に取り組んでいます。

2011年度は、新たに「東京湾再生アマモプロジェクト」と「東日本大震災復興プロジェクト」をスタートさせました。

セブン-イレブン記念財団では、これからも環境市民団体、セブン-イレブン加盟店及びセブン-イレブン本部と力を合わせて、活動内容の充実を図り、地域に根ざした社会貢献活動を展開してまいります。

皆様のさらなるご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団
理事長 山本憲司
(セブン-イレブン豊洲店オーナー)



三宅島緑化プロジェクトの植樹活動



東日本大震災復興プロジェクト
(宮城県気仙沼市での活動)

●九重ふるさと自然学校

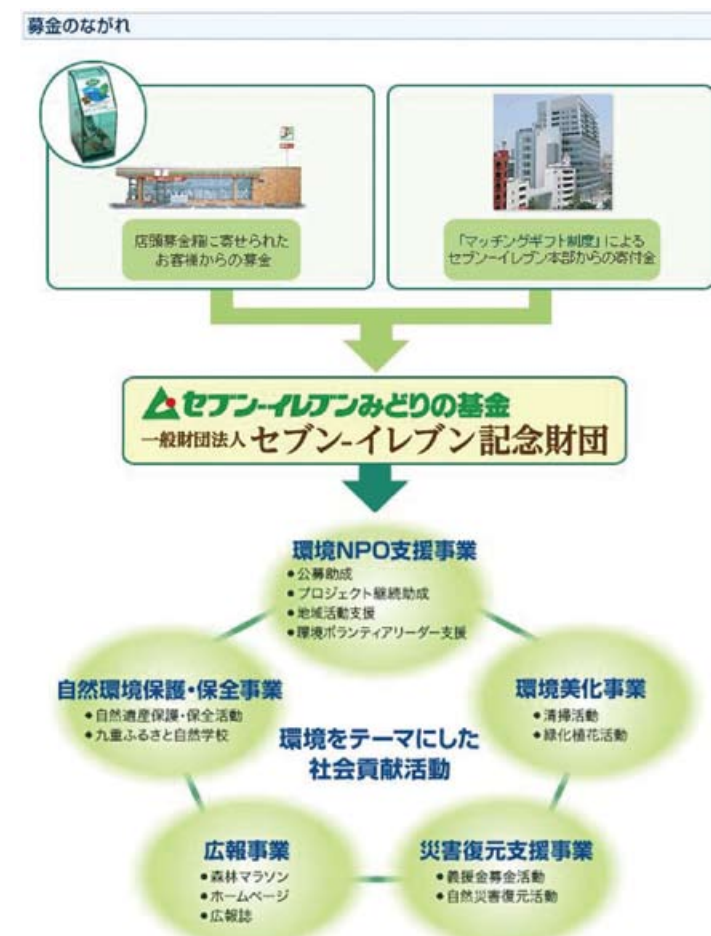
みどりの基金が大分県九重町で運営する九重ふるさと自然学校は、「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を理念に、地元の方々の指導・協力を得て「くじゅうの自然保護・保全」と「トキのすめる里づくり」の活動をしています。

2009年度は、地元の小中学生を対象とした野鳥観察や生き物観察などのプログラムや、「トキのすめる里づくり」をめざした生き物豊かな田んぼづくりと有機無農薬の稲づくりなどを行いました。



●支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり

「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」に対し、2009年5月9日「国民の森林推進功労者」として林野庁長官感謝状が贈られました。復興の森づくりは、北海道森林管理局・石狩森林管理署とセブン-イレブンみどりの基金が2006年～2008年の3年間「国有林における森林整備等の活動に関する協定」を結び実行委員会を設立し、市民団体や企業・学校等と協働して100haに10万本の植樹をした活動です。2009年度は「NPO法人 支笏湖復興の森づくりの会」を通し、復興の森づくりを支援しました。



三菱UFJニコスの環境への取り組み



三菱 UFJ ニコスでは、社会に生かされている企業市民として、環境等の社会的課題に正面から取り組む責任があると考え、三菱 UFJ フィナンシャルグループが掲げる2つの CSR 重点領域のひとつである「地球環境問題への対応」に注力しています。

MUFG CSR 重点領域

地球環境問題への対応

温暖化や生物多様性などの地球環境問題に対応すること

次世代社会の担い手育成

地球規模では環境や貧困、国内では少子高齢化や地域の諸問題を解決していく、次世代の担い手を育成すること

● ISO14001に基づく環境保全活動

2007年1月に「本社（秋葉原UDX）」において、環境マネジメントシステムに関する国際基準規格である「ISO14001」を取得しました。「OA 紙使用量の削減」「廃棄物・資源物の排出量削減」「電力使用量の削減」「グリーン購入比率の向上」に取り組んでいます。

● 環境に配慮した「MUFG カード」の発行

2008年7月から、カード入会から発券、ご利用明細書、ポイントの還元まで、一貫して環境に配慮した「MUFG カード」を発行しています。カード焼却時に塩素ガスを出さない PET-G 素材や、FSC（森林管理協議会）の認証紙利用に加え、カードのご利用に応じて付与されるポイントの交換商品として、カーボンオフセットプログラムなどをご用意しています。



MUFGカード・プラチナ・アメリカンエクスプレス®・カード



MUFGカード・ゴールドプレステージ



カーボンオフセットプログラムのご案内
(ポイントプログラム冊子より)

● 環境イベントへの参加・協賛

MUFG グループとして取り組む環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」の活動のひとつである、白神山地での植樹活動に参加しました。

身近な風景から環境問題に対する新たな視点を発掘する「環境フォトコンテスト（昭和シェル石油株式会社主催）」や「光都東京・LIGHTPIA2010」などに協賛し、ひとりでもたくさんの方々に環境保全の必要性をご理解いただけるように努めています。

〈公益財団法人オイスカ様との関係〉

お客さまにご参加いただいた各種エコ活動で集められた寄付金をオイスカ様に贈呈し、フィジーやインドネシア国での環境保全活動や「子供の森」計画に協力しています。

また、オイスカ様による東日本大震災の復興支援活動「海岸林再生プロジェクト」への協力も行っています。

◎主なエコ活動

◆ WEB 明細への切替

カード会員の皆様にご利用明細の“郵送”から“E メールでのご案内”に切替えた場合のペーパーレス化により削減される費用の一部を寄付

◆ 貯めたポイントで環境貢献

カード会員の皆様がクレジットカードのポイントプログラム「チャリティコース」にご応募いただくと、200ポイント毎に1,000円を寄付

◆ エコポイントの「三菱UFJニコスギフトカード」交換による環境貢献

お客さまがエコポイントを三菱UFJニコスギフトカードに交換された場合、交換金額の一部を寄付
(エコポイントの登録申請受付は終了しています)

三井ガーデンホテルズの環境への取り組み



“地球環境にやさしい” 連泊者限定の宿泊プラン～ 三井ガーデンホテルチェーン全施設にて 「ECO連泊プラン」実施中!!

三井不動産グループは、全国で展開する三井ガーデンホテルチェーンの全施設にて、「ECO連泊プラン」の販売を実施しています。

●「ECO連泊プラン」は、連泊でお泊まりいただく際の客室清掃、ベッドメイクおよびシーツ等のリネン類やアメニティの交換を行わない(※) 宿泊プランです。地球環境にもやさしいプランとして、特別価格にてご提供いたします。

※ゴミの回収や灰皿の清掃、タオルの交換については毎日実施いたします。また、3泊以上のご宿泊の場合は2泊おきに通常清掃を行います。

●上記宿泊プランの他、当ホテルチェーンでは、「eco ガーデンカード」の運用や省エネ型照明の採用、客室内のゴミ分別・リサイクル、フードマイレージを削減する地産地消の料理の提供など、地球環境に配慮した様々な取り組みを行っています。



三井ガーデンホテル銀座プレミア

●「eco ガーデンカード」の運用

- ◆平成20年3月より、廃棄物の削減と環境創造(緑の保全)のため、「eco ガーデンカード」を全施設にて運用しています。
- ◆ご宿泊者が客室内のアメニティボックスのグッズをご利用されない場合、「eco ガーデンカード」をフロントにお持ちいただきますと、お客様に代わり、当ホテルチェーンから環境保護団体(公益財団法人オイスカ)に寄付いたします。
- ◆当該寄付は、国内の植林および森林整備等に活用されており、運用開始以降の累計寄付金額は、2,808,350円となっています。(平成23年9月末時点)



eco ガーデンカード



アメニティー式

●地産地消の料理の提供

- ◆各施設のレストランでは、地元で生産された農産物や水産物を料理に提供する「地産地消」の取り組みを行っています。
- ◆地産地消は、新鮮な地元食材や名産の提供により、伝統的食文化の維持・継承とともに、輸送にかかるエネルギー消費やCO₂ 排出量削減にもつながるものです。

●職場体験学習への協力

- ◆全国の三井ガーデンホテルズでは中学生、高校生の職場体験学習に協力しています。客室清掃、朝食会場での案内、食器洗いなど幅広く体験され、皆さん一生懸命に学ばれています。

三井ガーデンホテルチェーンは、「環境にやさしいホテル」として、今後も地球環境に配慮した取り組みを積極的に行うとともに、「お客様の五感を満たすホテル」、「記憶に残るホテル」を目指し、国内外のホテル利用者に、ホスピタリティ溢れるサービスの提供に努めてまいります。

*三井ガーデンホテルチェーンの環境への取り組みを「WEB版 環境冊子」としてホームページに掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.gardenhotels.co.jp/>

